

災害調査・対策の状況

○ 変状の概要及び状況

盛土のり面に生じた亀裂は、現在もまだ進行している状況ですが、変状が生じた盛土及び地盤内の水抜き対策を講じたことなどにより、当初に比べ変状の程度は小さくなっています。変位量の観測値については、測定当初4月7日に約13mm/h、4月17日で約3mm/h、4月21日で約2mm/hとなっています。なお、路面に変状は生じておりません。



平成26年4月3日撮影

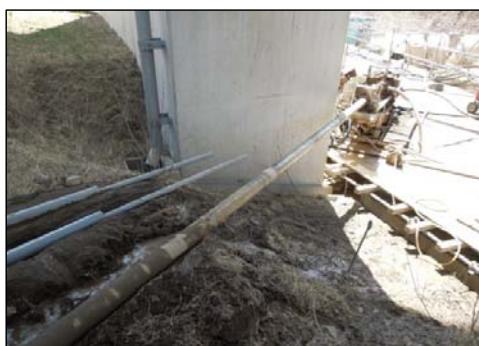


平成26年4月19日撮影

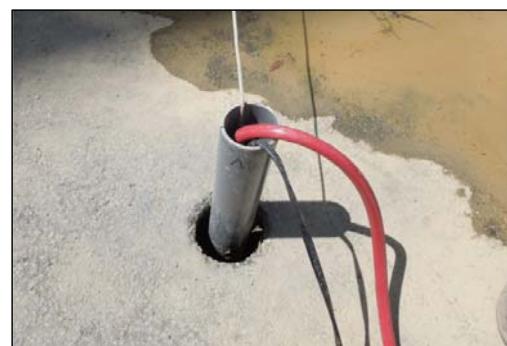
○ 緊急対応の概要

I. 水抜き対策の実施状況

盛土及び地盤内の水抜き対策を実施しています。



【水平水抜きボーリング】



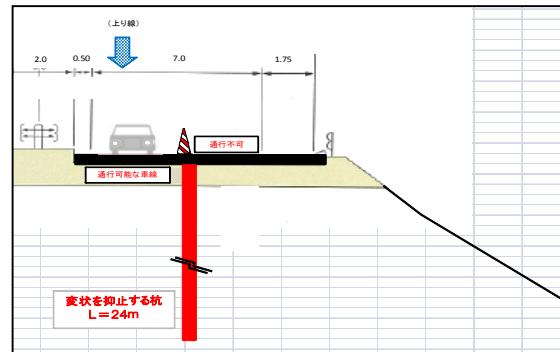
【ウェルポイント(強制排水)】

II. 安全性を確保するための対応

本線路面には変状は認められないものの、上り線 追越し車線の安全に万全を期すために、変状を抑止する杭(L=24m@25本)を追越し車線と走行車線との間に設置しました。



【施工状況写真】



【模式横断図】

III. 観測体制の強化

現地に、土の動きを把握する変位計(伸縮計)や路面の変状を計測するGPSを設置するとともに、路面変状を面的に捉えることのできる計測器(トータルステーション)による24時間監視をおこなっています。変状の兆候が確認された場合、速やかに通行止めを実施し、ご利用されるお客様の安全を確保します。



【変位計(伸縮計)】



【GPS設置状況】



【計測器設置状況】

○ 本格復旧に向けて

今後、変位が収まった段階で、追加調査を行い、その計測結果等を基に変状範囲等を特定し、必要な対策工を確定させ、できるだけ速やかに復旧対策工事を実施してまいります。